

さいたま小川町メガソーラー

環境アセス手続き、町・県・国の厳しい姿勢で
問題「解決」に至るか

2022年3月3日

ジャーナリスト 河野博子

自然エネルギーの持続可能性を考える連続ウェビナー総集編

概要

事業者：小川エナジー合同会社（埼玉県寄居町、代表社員は株式会社サンシャインエナジー、職務執行者は加藤隆洋氏）

出力 39600kW

事業予定地 官の倉山、石尊山の裾野、約86ヘクタール
起伏のある土地を切り土、盛り土で整地
森林の伐採面積29.9ヘクタール

盛り土 約72万 m^3 （熱海市の土石流が発生した源流部の
盛り土量の10～13倍 このうち約半分の
35.5万 m^3 は外から土砂を搬入



(小川町里山クラブ You-You提供)

事業予定地の歴史

- かつてゴルフ場の建設が進められ、バブル崩壊に伴いとん挫
1995年11月、プリムローズカントリー倶楽部の
建設工事が進捗率38.7%の段階で中断
- 2017年ころから見慣れぬ人たちが出入り、メガソーラーや
建設残土処分場の建設話が噂される。
- 2018年12月～2019年前半 残土処分場を行うとする事業者が
地元で説明会を計4回開催。運び込む残土の量は150万 m^3 。
- 2020年1月、メガソーラーをめぐる環境アセス手続き開始

2022年2月22日 経済産業大臣勧告

準備書で検討されている措置では、環境影響ができる限り回避され、低減されるかどうか判断できないため、**抜本的な計画の見直し**を行うことを前提に、以下の取り組みを求める。

- 盛り土量削減＝大量の土砂を搬入せず、区域内での切り土と盛り土による工事計画へ
- それでも土砂を搬入する場合は、受け入れ条件を明確化、土砂が発生する工事名、工事場所、搬入土量、土質を公表
- 土地の安定性についての措置を検討・実施
- 鳥類および生態系への影響について 追加的調査を実施
影響を回避、極力低減するよう事業計画を再検討

2022年1月25日 環境大臣意見

- 「本事業は発電以外の事業要素を含むとの疑問がもたれる計画となっている」
- 「本事業の計画内容については、**抜本的な見直しが必要**であり、それができない場合は、**事業実施を再検討**することを強く求めるものである」
- 「土地の安定性に係る調査が十分に実施されているとは考え難い」
- 「大規模な森林の伐採や土地の改変を伴い、動植物の生息・生育環境の消失及び懸念が大きいものである」
- ★ 関係機関、地域住民への説明を真っ先に求めている。

2021年12月27日 埼玉県知事意見

- 本文の前に明記 「本事業の実施自体、地域環境に大きな影響を与えるものであり、事故の発生に繋がれば地域住民の生命・財産に甚大な被害が生じる恐れがある。そのため、本事業において環境保全措置を講じたとしても、なお環境への重大な影響が払拭されない場合には、**本事業の中止を含めた事業計画の見直し**も検討されなければならない。」
- 造成計画では、施工方法、盛土材、締固めの管理方法などの記載がないことを指摘、里山生態系の保全について調査が不十分と指摘、事業計画の再検討を求めている。

太陽光発電施設が2020年4月に国の環境アセスの対象に加えられて以降、国が抜本的見直しを求めた初のケース



3つのポイントから見る

POINT 1：盛り土

- 量が多すぎる
例えば北西部の谷あいでは、高さ30メートルまで土が盛られることになりそう（地元住民の分析）。環境、経産省の専門家も疑問視
- 盛り土をする場所→過去の台風で崩落、地盤の特殊性
事業者は、過去のゴルフ場建設工事での盛り土、排水設備の欠如が原因と説明。専門家はこれを疑問視。事業地付近の地質の特殊性が原因と指摘。
- 土地の安定性についての専門家の懸念
ボーリング調査などによる地盤の内部の状況把握、施工の工夫が必要と指摘

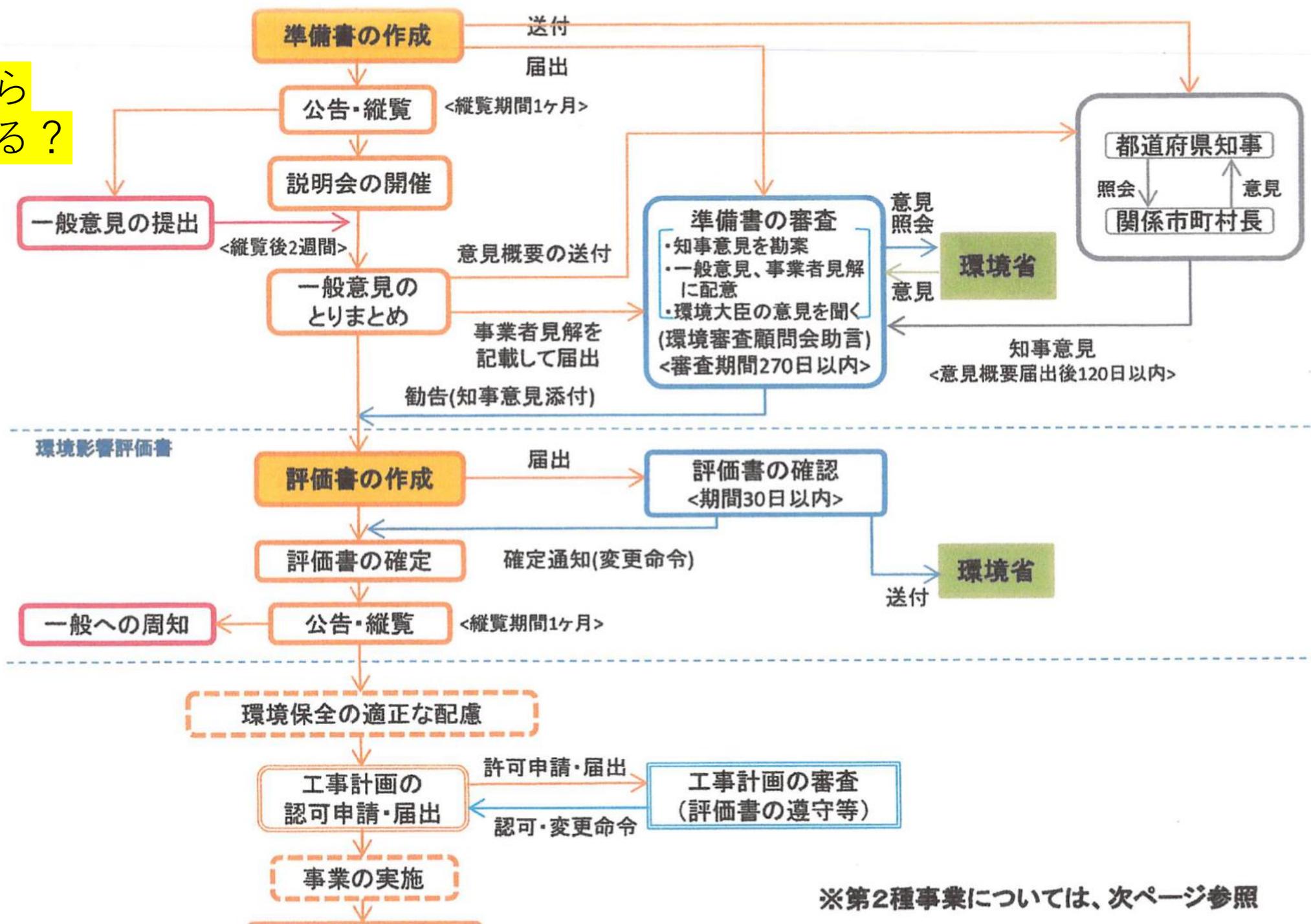
POINT 2：生態系への影響

- 住民と研究者らの独自調査により、絶滅危惧種のミゾゴイとサシバの繁殖が確認され、2021年8月に公表された。
ミゾゴイ：環境省のレッドリストで絶滅危惧II類 IUCNのレッドリスト（2016年版）で世界の生息数600～1700羽
（2020年版）5000～9999羽
2021年1～2月 4つの古巣を発見→4月～ICレコーダーによる録音と音声解析→抱卵中のミゾゴイを撮影
- サシバの調査 2020年に実施
サシバ：環境省のレッドリストで絶滅危惧II類 里山の猛禽類

POINT 3 地域住民との「対立」

- 2021年4月19～5月19日に環境アセス準備書の縦覧と住民説明会開催
- 4月20日に小川町の小川町民会館「リリックおがわ」での説明会、参加者全員が途中退席、やり直しを求めた。
事業者：チラシ配布で通知 住民：チラシを受け取った人なし
- 縦覧開始翌日のしかも平日（火曜）の夜、大量の準備書面を読む時間がない➡ 住民：配慮や周知が不十分

これから
どうなる？



※第2種事業については、次ページ参照

今回、国が厳しい姿勢を示せた要因

- 「比企の太陽光発電を考える会」の地道、多彩、活発な活動（国会議員会館での関係省庁への説明、記者会見、環境省関連の専門家、経産省環境審査顧問会の専門家への資料提供や説明・働きかけ、関連学会や様々な団体を通じた学者研究者への働きかけ）
- 地元区、町議会、県議会、国会議員の活動
- 県や環境省のがんばり → この案件だけでなく環境アセスの従来のパターンがこれをきっかけに変わるのではとの指摘（ツイッター上）もあった。

明らかにになった課題（短期的）

- 時間がかかる法制度の改正や創設。その前に、いますぐ着手できることもある。
 - ★ 経産省環境審査顧問会の指摘や要請を事業者はスルー
 - 例1：2020年8月、ミゾゴイの古巣やその利用の確認を求めた→事業者は昨夏の繁殖調査を実施せず、準備書公表
 - 例2：2021年11月、顧問会で地盤の安定化対策について質問や指摘、要請 → 事業者の補足説明書に含まれず
 - ★ 環境アセス準備書で事業者はいいかげんな説明
 - まかり通ってしまう
 - ★ 里山保全が理念にとどまり、手続きに反映されていない。

今後の課題は山積（長期的）

- FIT法に基づく事業認定やその取り消しといった仕組みを環境配慮ガイドラインに連動させ、順守を強化
- 土砂災害特別警戒区域及び土砂災害警戒区域の指定促進
および区域指定のあり方の見直し
- 環境アセス制度を抜本的に変える
- 太陽光発電施設の丘陵地など平坦でない場所への設置を規制する土地利用規制の仕組みを作る（ゾーニングの法制化）
- 自治体立法権の問題に取り組む
- SDGs を本来の意味で実行できているか、企業活動を監視

さいたま小川町メガソーラーについて小川エネルギー 合同会社が環境影響評価を委託した事業者のHP

[トップページ](#) > [持続可能な地球への取り組み\(SDGsへの取り組み\)](#)

持続可能な地球への取り組み

SDGsへの取り組み



私たちは、ミッションである「空間情報で未来に引き継ぐ世界をつくる」を実現するために様々な取り組みを行っています。その中でもSDGsは、気候変動対策と同様に事業の中心に据えており、社員一人ひとりがその目標達成を目指しています。

SDGsとは？

Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) の略称。2001年策定のミレニアム開発目標 (MDGs) の後継で、2015年9月の国連サミ

持続可能な地球への取り組み

SDGsへの取り組み

[国際的イニシアチブとの連携](#)

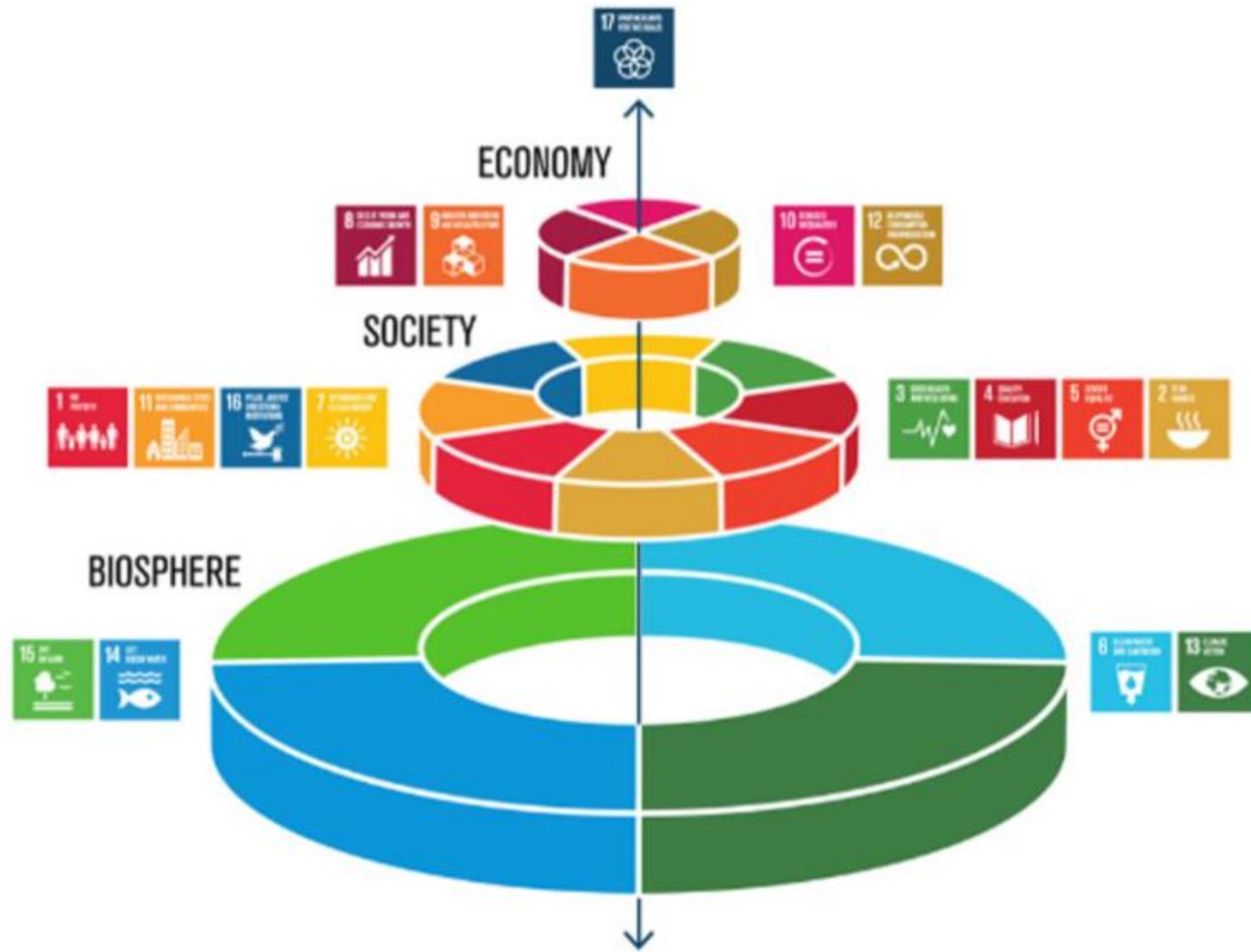
[CSVに向けた諸活動](#)

[太陽光発電事業の取り組み](#)

[復興支援活動](#)

専門用語と歴史を学べる
解説サイト

M. GIST



Copyright by Author. All rights reserved.



ご清聴ありがとうございました。
下記は全文読めるオンライン記事です。

20210530 東洋経済オンライン 小川町メガソーラー リンク

<https://toyokeizai.net/articles/-/430456>

20210825 東洋経済オンライン 小川町メガソーラー事業予定地に希少な鳥繁殖リンク

<https://toyokeizai.net/articles/-/449210>

20220224 東洋経済オンライン 小川町メガソーラー大量盛り土への懸念リンク

<https://toyokeizai.net/articles/-/514397>